

## 「社会主義市場経済」考

### 【サマリー】

堀 中 浩

資本主義といった経済のシステムの生成発展の過程を経済史的にあとづけるにしても経済を動かしている人びとを無視して歴史が成立しているわけではない。経営者であったり、労働者であったり、また技術者である場合もあれば、教育者の場合もある。要するに生きいきとした民衆の活躍が歴史を動かしている。

中国の現在を見よう。それが社会主義なのか、資本主義なのか、まずはとりあえずそのような議論は、棚上げして、民衆がどのようにこの歴史過程にかかわってきたのか、そして、現在、どのようにかかわっているのか。その一端にとりつき、さらに領域を拡げ、また事実をたしかめ、中国がどのような方向に向かって、歩こうとしているのか。この課題をしばらくは追求したいと思う。

そこで、「中日文化研究所論文集」第1号では、「社会主義市場経済」考(6)として国営企業改革をめぐって述べ、同2号では(7)として人びとの活動の場がどのようにつくられたかをとりあげ、同3号では(8)として、所有制の変更が経済学的にもつ作用について考えてみた。同5号では(9)として、加藤弘之氏の「曖昧な制度」という議論を検討し経済学への貢献を考えた。